

K A K E G A W A
 かがわ 第18号
**市議会
 だより**

平成20年11月1日
 編集/発行 掛川市議会
 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1
 ☎0537(21)1160

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>



掛川幼稚園

おもな内容 ————— CONTENTS

● 9月定例会の概要	2 ページ
● 一般質問	5 ページ
● 議案質疑	9 ページ
● 常任委員会行政視察報告	10 ページ
● 議案の審議結果	11 ページ
● 11月定例会の予定	12 ページ

平成19年度決算に見る

掛川市の財政は安心できるのか？

掛川市は財政が厳しい、借金が多い、市にお金がないので、市民サービスが悪い
 かつて掛川市の財政について話題になるたびに語られた会話です。

市税の比較



歳入の特徴は、

第一 に、財源の根幹となる市税が約二二三億円と、前年度に比べ約二五億円増加し、歳入全体の五三%を超える額となったことがあげられます。税源移譲による約十一億円の増収分があつたとはいえ、これまでの企業誘致や区画整理事業などの施策の成果が現れてきていると考えられます。

第二

に、普通交付税の特例により、昨年度に引き続き、旧2町分のみ交付されたこと。二年続けて財政力指数が1を超えたことは、財政基盤の着実な充実がうかがわれます。

平成十九年度財政力指数 (単年度数値) 一・〇四四

財政力指数とは？
 自治体の財政基盤の強さを表すもので、数字が大きいほど財政力が強く、1を超えると基本的に普通交付税は交付されない。



行政窓口や農協などが入った複合施設
 「大須賀支所・大須賀市民交流センター」

第三

に、市債発行(借り入れ)額が、前年度に比べ約七億円減つたこと。公債費の増加に歯止めをかけ適正化を図るため、市債発行額を元金の償還額以内に抑制しており、一般会計の平成十九年度末地方債現在高四九五億二、五八七万円は、平成十八年度末地方債現在高五二三億一、六三一万円に比べ、約十八億円減少しました。

また、市税に使用料及び手数料、諸収入などの自主的収入を合計した自主財源の比率は六八・六%となり、十七年度の六二・六%、十八年度の六三・五%に比べても行政活動の自主性や安定性の確保が進んでいるといえます。

平成19年度一般会計の決算は、

歳入決算額 (執行率100.15%)	414億1,085万円
歳出決算額 (執行率96.04%)	397億1,075万円
歳入歳出差引額	17億10万円
翌年度へ繰越すべき財源(翌年度事業継続分)	1億4,712万円
実質収支 前年度実質収支:15億5,167万円を差し引くと...	15億5,298万円
単年度収支	131万円

と、131万円の黒字となりました。

歳出の特徴は、

第一

に、新市建設計画の重点プロジェクトの推進があげられます。南北幹線道路の整備や同報無線及び地域防災無線の整備のほか、大須賀市民交流センター整備などが行われました。

第二

に、子育て支援・少子化対策として、「子育てセンターさやのもり」開園等幼保一元化の推進、和田岡・横須賀地区への学童保育所開設、乳幼児医療費助成や出生祝い金等の事業を実施しました。

第三

に、環境施策と大作戦に加え、マイバツク運動の取り組みなど、ごみ減量化の推進に取り組みました。

第四

に、児童生徒の安全確保や教育環境向上のため、西山口小学校の一部改築、耐震

補強事業や桜が丘中学校屋内運動場の改築事業、小中学校のガラス飛散防止事業などを実施しました。

その他

として、公的資金補償金免除繰上償還や財政健全化基金への積立を開始するなど、中長期的な財政運営を展望しての財政健全化に取り組みました。



平成20年3月3日市内で5番目となる幼稚園「さやのもり」が完成

公的資金補償金免除繰上償還とは？

国が、公債費負担の軽減対策として、平成十九年度からの三年間、一定の条件を満たす自治体を対象に、補償金を支払うことなく高金利（5%以上）の公的資金の繰上償還を認めたもの。

今決算を見ると、自主財源は着実に伸びており、このまま計画的に財政運営をしていけば、借金をして借金を返すような事態にはなりません。より、市民の福祉や暮らしに役立つ施策の実現が可能です。

しかし、今後取り組む課題が多い掛川市は、大型事業（病院建設・南北道・東西環状線・下水道など）を無理なく計画的に進めることが力ギのようです。

決算特別委員会委員長報告

平成19年度の決算議案については、一般会計と特別会計2つの決算特別委員会を設置し、審査を行いました。

一般会計決算特別委員会は、9月18日～19日の2日間、特別会計決算特別委員会は、9月18日に開催され、審査の結果、いずれも認定すべきものと決しました。

また、9月29日の本会議において、一般会計及び特別会計決算特別委員会の審査経過及び審査結果が、両委員長より報告されました。

一般会計決算特別委員長報告(抜粋)

問 市税等の収納策に関して

答 収納率向上のためコンビニ収納を21年度から導入予定。

問 預け入れとペイオフ対策について

答 ペイオフ対策については、金融機関の借り入れ、預け入れの相殺を基本とし、資金運用については万全を期す。

問 道路網計画策定に関して

答 新市の道路網計画は19年度中にまとめたが、今後も必要に応じて毎年見直す予定。

問 農業予算、農業振興に関して

答 食の安全や農業振興の面について見直しを行う。

問 IT政策に関し費用対効果はどうか

答 競争でやれるものは競争で、できないものは職員で精査して、できるだけ安価にするよう努力している。

問 地上デジタルテレビ放送の難視聴区域への対策は

答 民放とNHKがひとつになり県に対策本部を設け、市民の相談を解決していく。

問 救急活動費について

答 一回救急出動すると約6万円の経費がかかる。軽症等で何度も呼ぶ方については、訪問指導をする。

問 給食材料は地産地消されているか

答 米、野菜とも県内産を使用している。

問 生涯教育課が各種団体へ交付している補助金の効果は

答 評価は難しいが、いろいろなものを参考に考えていく。

特別会計決算特別委員長報告(抜粋)

国民保険特別会計

問 人間ドック事業推進により交付されたという特別調整交付金の交付基準は

答 保険事業については、税収の1%以上を実施するよという国県からの指導があるが、掛川市では、税収の2%強を保険事業に使っており、その点が評価されたものである。

介護保険特別会計

問 介護サービスへの就労者が減少してきていると聞かすが、市内の状況は

答 施設長との話し合いで聞いたが、非常に厳しいとの現場での声である。費用は、介護度に応じて国の基準があるが、次期計画では若干、上がると聞いているので就労者確保に期待している。

問 現事業計画と19年度決算との整合性はどうか。また、21年度以降の介護保険料の見込みはどうか

答 計画どおり推移している。次期計画は現在策定中であり、保険料等の明確な数字はまだ出ていない。

公共下水道事業特別会計

問 接続率はどうか

答 毎年ほぼ同じ数値となっている。回覧や地元役員等に協力をお願いして接続率の向上を図っている。

公共下水道事業の接続率(H20年3月末現在)

・掛川処理区	78.8%
・大東処理区	83.6%
・大須賀処理区	52.4%

浄化槽市町村設置推進事業特別会計

問 中長期的な全市の計画を市民に明確にしていることが必要ではないか

答 来年度は東山口地区で開始していく。その後の計画は、策定次第明らかにしていく。

温泉事業特別会計

問 4月から入場料を下げたが、その効果はどうか

答 昨年と同時期と比べて2割増しとなっており、効果が現れていると考えている。

一般質問

Q&A

掛川市の安全・安心施策と防災は

水野 薫（親和会）

Q 各地で大規模地震等、安全や安心を揺るがす災害が多発している。心と物の備えが大切である。九月の防災訓練のあり方の再検討と公共施設等の耐震化の現状と今後の計画を問う。

A 来年度以降、区長会の意見等も伺いながら、内部で研究・検討をしていきたい。

国の基準を満たす建築物の耐震化率は九十一％である。耐震性能が劣る教育施設を含んだ建築物については、幼保再編計画など市の全体計画と調整しながら耐震化を進めているところである。

Q 厳しい農業環境に対する市としての対応は

A 原油高騰に伴う燃料、諸材料費の高騰は農家の経営を危機的な状況にしている。省エネ・脱化石燃料化を目指している農家への支援はどのように考えているか。また、増え続ける離農者や遊休農地対策はどのように考えているか。

A 今年度から市単独事業の要綱を一部改正し「省エネルギー型冷暖房設備の導入に要する経費」を追加することにより、農業経営の支援に対応している。遊休農地は市民農園の推進も有効と考える。来年度において具体的な遊休農地解消計画を策定し、本格的な対策に取り組んでいきたい。

【他の質問事項】
新市建設計画の進捗状況、掛川高瀬線の市道認定等当面する政治課題

開園した幼保五園の運営の実態はどうか

桑原百合子（みどりの会）

Q 幼保再編計画に基き、現在、幼保園五つが開園している。幼保園となつて通園している子供の様子はどうか。幼保園の運営の実態を教育委員会はどう把握しているか。

A 再編することによって園児数が増加し、計画どおり三歳児保育も実施できるといふ状況である。現在、幼稚園部と保育園部のクラスは別々であるが、園児の活動は、幼保混合で行っている。今後、幼保混合クラスも視野に入れて、研究・支援をしていきたい。

Q 女性会議を男女一緒にの市民会議に発展させる考えは

A 昭和五十六年婦人女性会議と変わり二十八年間続いている。男女共同参画社会を目指す現在、女性だけの会議ではなく、男女一緒にの「市民会議」に発展させるべきと考えるがいかがか。

A 女性会議に男性を入れるという考え方は賛成できかねる。議会同様の組織を新たにつくるとは、議会軽視に繋がると考える。これは、あくまでも市民の皆さんが自主的に研究、提言するということに意味がある。

【他の質問事項】
掛川の文化財



日頃からきめ細かい防災対策を



掛川市立乳幼児センター「すこやか」

一般質問

Q&A

中心市街地活性化基本計画の進捗状況は

松井俊二（親和会）

Q 平成十九年一月、「掛川市中心市街地活性化協議会」が発足された。

現在、この基本計画について国と協議を行っているが、その進捗状況は。また、市街地再開発事業の推進と今後の予定は。

A 現在、新基本計画

について、内閣府に設置された活性化本部と協議を重ねているところである。

中心市街地活性化を実現させるためのハード・ソフト合わせて四十六事業を見直しつつ、計画の核事業である駅前東街区市街地再開発事業の枠組みが固まる年度内の認定を目指している。特定業務代行方式を採用するため、業務代行者の選定を都市再生機構に委託することになった。代行者決定後は、二十年度内に組合設立、二十一年度工事着手、二十三年度完成を目標としている。

Q 富士山静岡空港開港に向けての地域振興策は

A 富士山静岡空港が

来年三月に開港する。空港から車で二十分と最も近くに新幹線駅がある掛川市としては、空港を活かした魅力ある地域振興策が必要であると思う。庁内における取組状況とその内容は。

A 昨年、地域振興計画

画実行委員会を庁内に設け、現在、空港を活かした掛川市の地域振興策を検討している。近隣市町や商工会議所等と連携を取りながら策定を進めていきたい。

【他の質問事項】

緑の精神回廊の進捗状況と今後の構想、消防の広域化の進捗状況

『どうする掛川茶!』 厳しい茶業現場は何をなすべきか

戸塚久美子（みどりの会）

Q 掛川は全国茶品評会で「産地賞」を連続受賞した。そのプライドを

かけ直す「茶業振興計画」の特徴は何か。合わせて茶業支援への取り組みを伺う。

A 現在、計画の内容に

ついて茶農家や茶商等とも協議しており、十一月の全員協議会には、お諮りしたいと考えている。将来の流通・販売体制等についてもこの計画に含まれている。掛川茶に対する消費者の認知度を上げるため、ブランド化の確立、茶観光や海外戦略なども今後、考えていきたい。

重要課題における方針と次年度の庁内組織編成等を伺う

Q 重要課題と考える次の

三点についての方針及びそれに対応するための組織編成を伺う。

(1) 過疎化への対応に中山間地対策室の設置。

(2) 病院ポランティアコーデイネーターの配置。

(3) 新東名開通及び空港開

港に備え、新交通関連に係る専門官の配置。

A (1) 総務省の集落支

援員という制度を検討したい。新しい機構を作ることは難しいが、担当者を明確にするということを考えていく。

(2) 看護師不足や職員削減を行っている中、正規職員による専任的なコーデイネーターの配置は難しい。

(3) 企画調整課を中心に、商工労働観光課、地域振興課などが連携して取り組んでいる。現在のところはこれが十分機能していると考えている。

【他の質問事項】

市民農園の推進



工事が進む新東名

一般質問

Q&A

危険な「空き家対策」に 市の具体的対応を

水谷陽一（日本共産党）

Q

地区の「市民総代会」でも取り上げられた空き家対策。最近、核家族化や高齢化で増え、屋根がずり落ちる、野良猫や不審者の侵入など、近隣者の生活安全上にも対策が必要。近隣者や地元町内会では手に負えないが、今までの市の対応も十分ではない。建築基準法では、「保安上危険な建築物等に対する措置」があり、市として住民の危険を回避する措置が取れる。まず各町内会を通じて早急に調査をやるべきだがいかがか。

A

先般、空き家火災があり、その危険性は認識している。地域の安全・安心の観点から全市的に調査を行う必要があると考えている。地元自治会の協力や市民の情報提供をお願いし、できるだけ早い時期に実態を把握していきたい。



放置された空き家

Q

日本の「国際貢献」のあり方と安全対策について伺う。アフガンで犠牲になった伊藤和也さん、市長として国に意見を述べる必要があると考えるがいかがか。

A

非常に残念に思っている。伊藤さんの偉業が後世まで語り継がれてほしいと願うものである。近いうちに外務省へ赴き、自治体への情報伝達と対応、現地邦人の保護対策などを要望していきたいと考えている。

【他の質問事項】
市立病院問題

待機児童数の現状と見通し 及び対策を伺う

東堂陽一（親和会）

Q

掛川市の出生率、出生数、子供の数の推移から、少子化対策、子育て支援策を伺う。これを踏まえ、待機児童数の現状や見通しと対策を伺い、平成二十一年度末までに待機児童を解消する目標達成ができるのかを問う。

A

掛川市の人口動態を見ると、十四歳以下の年少人口割合が十五%を割っており、これに歯止めを掛けるための対策は喫緊の課題となっている。国県の施策と連動させ、市が担うべき有効な少子化対策を展開していきたいと考える。今後、保育需要は更に高まるものと考えているが、掛川中央幼稚園開園などにより、総定員数が増加するため、平成二十一年度には待機児童数がゼロになると見込んでいる。

Q

地域医療連携の仕組みを整えることは、新病院建設の条件であると考えられる。いつからどのような形で誰が主導的立場に立つて、この議論を始めるべきと市長は考えているか。

A

新病院の場所を含めた協議会の結論が出た時点で、新しい体制を含めて議論していくことになるのではないかと。当然、両市長が責任を持ってやらなくてはならないことであるが、県や医師会、病院関係者にも考えてもらわなくてはならないと思う。

【他の質問事項】

ワークライフバランス、病院経営、下水道整備計画の基本方針

議案質疑

平成十九年度掛川市一般会計歳入歳出決算の認定

問 国の税源移譲でいくらの実質収入が増え、逆に減った額はいくらか。

答 平成十九年度決算における個人市民税現年課税分のうち所得割額が、六十三億九千七百二十六万円、前年度比十三億七千六百六十六万円、一七・三%の増となり、増額分のうち、税源移譲による純粋な増収額は十億八千万円程度と推計している。

一方、税源移譲に伴う歳入面の減額については、平成十六年度から、税源移譲前の暫定的な措置として交付されていた所得譲与税が廃止され、前年度比九億二千六百五十万円が皆減された。

平成二十年度掛川市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

問 基金積み立ての目的は、後期高齢者医療制度への財政支出を含めた赤字対策との説明だが、国保会計の基金積み立てについて数字的根拠を伺う。

答 平成二十一年度においても、本年度同額の三億円程度の繰入が必要となることが見込まれる。今年度末の支払準備基金の保有予定額が、約一億二千万円であるこ

とから、約二億円の不足が生じることになる。したがって、一般会計から二億円を国保会計に繰り出して、支払準備基金へ積み立てること、その対応を図りたいと考えている。

掛川市職員の公益法人等への派遣等に関する条例等の一部改正

問 「公益法人等」を「公益的法人等」に改めるとあるが、「公益的」とはどのような法人か。

答 新旧の両制度において、公益法人の文言が重複することとなったことから、名称に紛れないよう文言の調整を行ったものである。

条例が対象とする公益法人の範囲が実質的に変更されたわけではない。



厳しい農業情勢に対する 施策強化を求める意見書(要旨)

国においては農業を取り巻く情勢の早急な健全化に向けて、下記の事項について必要な対策を講ずるよう強く要望する。

記

- 1 農業用燃料及び飼料・肥料・農薬等農業用資材の高騰に対する対策、直接補助の確立と支援策を早急に図ること
- 2 生産基盤の整備推進、農家負担の軽減策と専業農家の育成を早急に図ること
- 3 荒廃農地の防止と中山間地・小規模農家の離農防止対策を早急に図ること

提出先：衆議院議長、参議院議長、
内閣総理大臣、農林水産大臣

ワーク・ライフ・バランスの街づくり決議

いま、長時間労働は社会全体にとって大きな課題です。働く人たちの心身の健康への影響、家庭生活との両立の困難さ、地域社会の担い手不足、少子化などの問題を投げかけています。

私たちは、「ワーク・ライフ・バランス」という視点から、働き方や暮らし方、地域社会のあり方を見直すことが求められています。

私たちが目指すのは、一人ひとりが健康でいきいきと働き続けることができ、安心して妊娠・出産、育児や介護などの家庭生活を充実させ、自らの職業能力開発をはかり、地域活動にも参加できる「ワーク・ライフ・バランス社会」です。

その実現に向けて、私たち掛川市は、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」に沿って、仕事と生活の調和を実現している企業への支援、保育や介護サービスの充実など、ワーク・ライフ・バランスの街づくりに行政・企業・各種団体・市民が一体となって、国の指導にもとづいて取り組むことを決議します。

平成20年9月29日 掛川市議会

行政視察報告

各常任委員会は、所管事項を調査するため先進地の行政視察を行いました。

経済建設委員会 7月7日～9日

【視察事項】

- ・田園テーマパーク 北海道札幌市
- ・14種分別収集と再資源化(バイオマスの取り組み) 北海道富良野市
- ・空港を活用したまちづくり 北海道旭川市

田園テーマパーク「サッポロさん」は、都市と農業の共存を目的に、市民が農業や自然にふれ合いながら憩い楽しむ施設で、面積一〇二ヘクタール、二百八十六億円の事業費と二億円の委託料で賄われているとのことであつたが、苦しい経営状態にあると感じた。富良野市では、「燃やさない・埋めない」を基本理念に、固形燃料や生ゴミの堆肥化など徹底したリサイクル

文教厚生委員会 7月16日～18日

【視察事項】

- ・救命救急センターの開設(福山市病院) 広島県福山市
- ・世界遺産登録への経緯と今後の取り組み(石見銀山遺跡) 島根県大田市
- ・新エネルギー推進事業 島根県出雲市

化がなされており、掛川市ももう少しの段階にきていると思う。旭川市の「空港を活かしたまちづくり」については、空港の規模としては、富士山静岡空港とほぼ同じで、掛川市は、県とも連携をとりながら、新幹線掛川駅を中心に積極的に売り込む必要を感じた。北海道では自然環境の厳しい制約と行政も交付金、補助金依存体質が強く、地域の切実な背景を感じた。



富良野地区環境衛生センター

総務委員会 8月19日～21日

【視察事項】

- ・空港を活用した地域づくり 北海道千歳市
- ・消防行政(広域消防) 財政問題 北海道石狩市
- ・リバーサイドまちづくり 北海道釧路市

できることに研修医や看護師が集まってきているようである。石見銀山は、鉱山と豊かな自然環境が一体となった十四番目の世界遺産である。遺跡の修復、観光客の受け入れ態勢など、全体的整備や観光施策に遅れが目立った。出雲市新エネルギー推進事業は、風力・バイオマス・水素エネルギーなどを活用した壮大なエネルギー計画であるが、企業との連携、企業誘致、地元企業の多角化がイメージにある。



石見銀山世界遺産センター

千歳市の空港を活用した企業誘致。成果は非常に大きい。自治体の間の厳しい競争の中、企業誘致に掛ける意気込みに並々ならぬものを感じた。地の利に勝る本市は、富士山静岡空港の開港を機に、企業誘致をはじめ、活力あるまちづくりに向けて、まだまだ頑張っていかなければならない、頑張れるということを改めて確信した。物を造れば維持費がかかる。厳しい財政状



千歳市役所

況の中、自治体の悩みの種である。市民ボランティア団体の協力を得ての釧路川リバーサイドの維持管理。課題もあるが、市民による活発な愛護運動等見習うべき点も多い。本市の緑の精神回廊等でも、維持管理等に多くのボランティア団体が参加できる環境づくりを早急に進めるべきである。増大した公債費や社会保障負担、加えて地方交付税等歳入の減少による石狩市の財政赤字。安易な起債は厳に慎むべきと改めて感じた。

議員定数を24と定める条例を制定 次期市議会選挙(21年4月)から適用

去る七月三十日、掛川市議会臨時会を開催。議員定数を現行の30から24とする定数条例が親和会とみどりの会の二十七人から提出され、賛成多数で可決されました。

【提案理由】

議員定数削減と住民自治の確立は相互関係にあり、今後さらなる住民自治の推進は不可欠であると考えられる。議員定数削減により、地域住民が自ら立ち上がり、住民自治が確立されることを期待する。

行財政改革の推進の一翼を担う掛川市議会みずからが減量化を図ることは時代の趨勢であり、有権者の声と考える。

【質疑】

市議会の役割は、市民の意見を市政に反映させること、行政の監視チェック機能を果たすことである。この役割が定数削減で果たせるのか。

【答】

議員数の数が多いことが、イコール住民意志をよりよく反映すること、監視機能の強化につながるかといえ、それは疑問に感じる。選ばれた議員が、また議会として、どう活動していくかにかかっている。したがって、二十四人の定数でも、議会の役割は果たせると考える。

【反対討論】

議員定数を削減するのは、議会制民主主義の破壊である。国の悪政から市民を守り、将来の掛川市の発展を目指すのなら、少なくとも現行の議員定数にすべきである。

【賛成討論】

掛川市は、議員一人当たりの人口比率が三千八百四十七人と他市より低く、これに比べ県内の人口十万人以上の自治体を見ると、おおむね五千人以上となっている。

また、市当局が行政改革を進める中、職員数を十年で百二十八人も削減に取り組んでいる。

議会が率先して定数削減を平すことにより、行政・議会・住民の一体性がさらに強固なものになっていくと確信している。

～ 9月定例会における議案の審議結果～

全会一致可決・認定

掛川市職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び掛川市消防団員等公務災害補償条例の一部改正
掛川市職員の公益法人等への派遣等に関する条例等の一部改正
掛川市特別職報酬等審議会条例等の一部改正
掛川市富士見台霊園条例の一部改正
掛川市汚水処理施設条例の一部改正
掛川市立学校体育施設等使用条例の一部改正
大須賀中央公民館耐震補強等工事請負契約の締結
消防ポンプ自動車、救助工作車購入契約の締結
辺地総合整備計画の策定
掛川市道路線の廃止・認定
掛川市議会会議規則の一部改正
掛川市議会政務調査費の交付に関する条例の一部改正
平成19年度掛川駅周辺施設管理特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市簡易水道特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市温泉事業特別会計歳入歳出決算
平成19年度上西郷財産区ほか3財産区特別会計歳入歳出決算
ワーク・ライフ・バランスの街づくり決議
厳しい農業情勢に対する施策強化を求める意見書

賛成多数可決・認定

平成20年度掛川市一般会計補正予算(第2号)
平成20年度掛川市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
平成20年度掛川市介護保険特別会計補正予算(第1号)
平成20年度掛川市公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)
平成20年度掛川市病院事業会計補正予算(第1号)
平成20年度掛川市水道事業会計補正予算(第1号)
平成19年度掛川市一般会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市国民健康保険特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市老人保健特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市介護保険特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市公共用地取得特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算
平成19年度掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計歳入歳出決算
賛成少数不採択
掛川市立総合病院の充実と現在地での存続を求める請願書
誰もが安心して生活できる環境を求める陳情書

議会 日誌



【7月】

- 16日～18日 文教厚生委員会行政視察(福山市、大田市、出雲市)
- 22日 市議会全員協議会
議会運営委員会
議員懇談会
- 23日 地球温暖化対策特別委員会
- 24日 静岡県市町議会議員研修会(静岡市)
健康・福祉対策特別委員会
- 28日～29日 財政問題特別委員会行政視察(羽曳野市、交野市)
- 30日 掛川市議会第4回(7月)臨時会
- 31日～8月1日 議員全員東京研修

【8月】

- 4日 経済建設委員会現地視察
- 5日 東遠工業用水道企業団議会
小笠老人ホーム施設組合議会
- 6日 新病院建設特別委員会
掛川市・菊川市衛生施設組合議会
- 8日 東遠広域施設組合議会
- 12日 東遠学園組合議会
地球温暖化対策特別委員会
- 19日～21日 総務委員会行政視察(千歳市、石狩市、釧路市)
- 22日 市議会全員協議会
健康・福祉対策特別委員会
財政問題特別委員会
- 25日～26日 地球温暖化対策特別委員会行政視察(飯田市、伊那市、安八町)
- 26日 東遠地区聖苑組合議会
- 27日 議会運営委員会
議員懇談会

28日～29日

議会だより編集特別委員会行政視察(安曇野市)

【9月】

3日～29日

- 掛川市議会第5回(9月)定例会
- 5日 議会だより編集特別委員会
- 10日 議会運営委員会
- 18日 議会運営委員会
- 22日 健康・福祉対策特別委員会
- 24日 地球温暖化対策特別委員会
財政問題特別委員会
新病院建設特別委員会
- 25日 議会だより編集特別委員会

【10月】

1日～2日

健康・福祉対策特別委員会行政視察(銚田市、稲城市)

6日～8日

議会運営委員会行政視察(五島市、佐賀市、太宰府市)

14日

議会だより編集特別委員会



七月二十八日、市議会として、岩手・宮城内陸地震で被災した災害協定市である岩手県奥州市を訪問しました。議員全員からの災害義援金三十万円を奥州市議会議長に手渡した後、被災状況などを調査しました。

傍聴席

9月市議会の一一般質問を傍聴しました。その中で、昨年オープンした「たまりな」についての質問が二人の議員さんからあり大変興味深く拝聴しました。質問主旨は、約1年5ヶ月を経過しての利用状況や管理運営上の問題・課題等についての質問が多くありました。「たまりな」は、自然環境豊かで、高齢者の施設としてとても利用しやすい、これから多くの市民が活用をしながら可愛がり育てて行って欲しいと実感しました。

久保 窪野京子

おしらせ

本会議のインターネット中継が始まります。

11月定例会から、本会議の様態をインターネットでご覧いただくことができますようになります。

下記、市役所ホームページからアクセスしてください。

【ホームページアドレス】

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>



11月定例会の予定

【11月】

28日 本会議(議案の提案説明)

【12月】

9日 本会議(一般質問)

10日 本会議(一般質問)

11日 本会議(議案質疑、委員会付託)・常任委員会

15日 常任委員会協議会

22日 本会議(委員長報告、質疑、討論、採決)

編集後記

アメリカから始まった金融危機は、世界中を巻き込み先の見えない状況の中、四人のノーベル賞受賞は、我が国にとって誇る明るいニュースです。

九月定例会も終わり我々議員一同の動きと議会内容をくまなく「この「議会だより」は六人の編集委員により創意工夫を重ね市民の皆様にはわかりやすい議会の状況をお知らせし見やすい「議会だより」を作っています。

編集委員 山崎